

ボラサポ 平成 30 年 7 月豪雨 報告書

※ オンライン報告書からの抜粋

活動期間・日数	1.活動期間*( 2019/03/01 ~ 2019/09/30 ) 2.活動日数*( 87 日)
活動した人数* ※およその人数 で構いません	<p>1.スタッフ (実人数 1 人)・(のべ 80 人) ”有償スタッフ”の人数を入力してください (のべ人数:実人数×活動日数)</p> <p>2.ボランティアリーダー (実人数 8 人)・(のべ 291 人) 団体で中心的に活動している”無償スタッフ”の人数を入力してください</p> <p>3.ボランティア (実人数 288 人)・(のべ 288 人) 随時参加する無償のボランティアの人数を入力してください</p> <p>1 日の平均活動人数: <input type="text" value="8"/> 人</p>
活動した場所や拠 点*	<p>1. 広島県呉市天応地区・小坪地区・倉橋地区</p> <p>2. 広島県坂町坂地区</p>
活動の対象者*	<p>1. 呉市、坂町にて仮設住宅に入居する世帯</p> <p>2. 活動対象地域において被災家屋に生活を続ける世帯</p> <p>3. その他、被災の有無に関わらず、被災地域に生活し、今後の地域づくりや復興の担い手となる地域住民</p>
活動した内容* 1600 文字以内で 記入してください	<p>(1) 仮設住宅における風除室および家具等の設置 対応世帯数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呉市天応地区仮設住宅団地 38 世帯/41 世帯</li> <li>・坂町平成ガ浜、平成ガ浜東仮設住宅団地 19 世帯/60 世帯 +イベント等での参加 15 世帯程度</li> </ul>

	<p>上記 2 地区の仮設住宅団地において風除室、および生活改善のための家具・棚等の設置を実施した。</p> <p>主な設置内容は</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・風除け室</li><li>・ベランダ</li><li>・靴箱や玄関外で活用する物置棚</li><li>・室内で活用する隙間家具</li><li>・その他、住民さんの要望に合わせすでに設置済みの家具等の補強等</li></ul> <p>(2) 仮設住宅における集会所、ごみステーション等の補強 対応数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・呉市天応地区仮設住宅団地 集会所・ごみステーション 計 2 件</li></ul> <p>(3) 仮設住宅から新居等への移転に伴う引っ越しの手伝い 対応数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・呉市天応地区、坂町坂地区 合わせ 10 件程度</li></ul> <p>(4) 被災地における斜面のブルーシート張り直し、床下土砂だし等 ※社会福祉協議会等依頼に基づく 対応数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・約 5 件程度</li></ul> <p>(5) 地域団体「つなごう@天応」の支援とコミュニティの強化 対応数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・8 月 18 日実施「天応子ども祭り」 1 件</li></ul>
活動の成果*	*活動をする前と後で対象者や地域にどんな変化があったのか、活動で得られた成果は何か、活動を始める前の目標と実際に活動を行なってみての結果や課題などについて記入してください。数値的に示せる項目があれば、以下の 2 つ以

外にも記載してください。

■ 支援対象者

(実人数 70 人)

(のべ 150 人)

■ 活動回数

( 52 回)

(1) 呉市天応地区仮設住宅団地での活動について

・同仮設団地においては自治会が設置されており、主に副自治会長(後、自治会長)に協力を頂き、全戸への希望調査を実施するとともに、設置日には同自治会長他、仮設住宅に生活する住民さんの参加を頂き活動を行った。コミサポひろしまは災害後継続して同地域で活動をしていたこともあり、すでに住民との信頼関係も出来ており、多くの住民さんから気兼ねなく要望を頂くことができ、細かな要望に沿った形での活動が実施出来た。

結果、仮設住宅における住環境は実施前より改善しており、住民さんの直接的なストレスの軽減に繋がったと考える。

また、活動を通し、天応地区在住のメンバーが積極的に活動を行う他、地域で立ち上がった団体「つなごう@天応」が活動に加わる中で、結果として、仮設団地集会所でのサロン活動等を同団体が積極的に実施する等、新たな活動に繋がる内容であった。合わせて、現在も、仮設団地から寄せられる住環境の整備についての依頼は、元仮設住宅住民(現在は新居に移転)が聞き取り、必要に応じて実施していることから、同活動が地域の自主性を引き出す内容であったと考える。

※コミサポひろしまは機材や資材の貸出は実施

(2) 坂町平成ガ浜仮設住宅団地、平成ガ浜東仮設住宅団地の活動について

・同仮設団地は全 98 戸中、約 60 戸で被災者が生活を続けており、風除室、棚等の設置は 3 分の 1 に当たる世帯で実施を行った。坂町においては、災害公営住宅が 2020 年 3 月に完成予定であり、残された生活期間が半年であったことも実施戸数に影響している他、自治会が設置されていないことも影響している。

しかしながら、実施に当たっては、坂町社会福祉協議会が積極的に全戸へのチラシ配布と声かけを行ってくれたことにより、イベント的に開催した際の依頼も合わせると 5 割以上の世帯が参加しており、一定程度の住環境の整備に繋がったと考える。

また、個人の変化としては、直接的に活動に加わってくれた住民さんが参加の都度「自分が活躍できる場が出来て良かった」「新しく自分の農地の小屋作りを始めた」等、次のステップに繋がっている感想を頂いており、特に男性住民にとって、サロン等とは異なる形で心のケアに繋がったと考える。

#### (3) その他活動について

「被災地における斜面のブルーシート、床下土砂出し等」の活動について、災害後 1 年がたった状況での依頼であり、本来はすでに処置がされて然るべき内容であったと考えるものの、現状では対応できる団体、個人が少ないことから対応を実施した。結果、住民さんの不安の除去等に貢献できたと考える。

#### (4) 課題について

上記、(1)、(2)の活動の成果については引き続き仮設住宅団地、そこに住む住民さんとのコミュニケーションを継続し、必要に応じて対応を行いたい。呉市天応地区については、すでに地域で活動する団体が自立して活動できる状態になっており、コミサポひろしまとしては最大限の活動が出来たと考えている。一方、坂町においては社協と協力するボランティア有志が核となっているが、引き続き協働する中で、主体的に関わる住民が増えていけるよう関わっていく。